

大和町名産の柿



建設情報誌

C-net 通信

Construction

Vol. 90

さが

『C-net通信』で 検索

2011年10月26日
(毎週水曜日発行)

発行所：(株) NSC

http://www.nsci.co.jp

佐賀市日の出1丁目16-19 TEL 0952・97・9643

FAX 0952・97・9647

■会員料金■
(ネット+冊子)

月額 4,200円(税込)
年間契約 46,200円(税込)

九州地区工法説明会を開催

技術者約180人参加、斜面防災の知見深める

SSLアンカー・Q&Sフレーム協会



あいさつする
原裕九州支部長



講演する林重徳
佐賀大学名誉教授

SSLアンカー協会九州支部、Q&Sフレーム協会九州支部(ともに原裕支部長)は21日、佐賀県唐津市で九州地区工法説明会を開催した。官公庁や建設会社の技術者ら約180人が参加し、斜面災害の復旧工法であるSSLアンカー工法とQ&Sフレーム工法について理解を深めたほか、アンカー工・法砕工の最新技術の動向や斜面防災などに関する特別講演を聞いた。

開会に先立ち原支部長は「SSLアンカー工法は全国のあらゆる地質・地盤に対応でき、Q&Sフレーム工法は現場での工程を省力化するなど施工性・安全性を配慮した工法。斜面災害や地すべりから人命と財産を守る工法として使っていたきたい」とあいさつし、積極的な活用を呼び掛けた。

工法説明会では、SSLアンカー協会本部技術委員の東康治氏がSSLアンカー工法的设计・施工について解説。アンカー体と設置地盤との進



唐津市文化体育館で開かれた説明会

行性劣化を克服した同工法では、地盤の特性に応じて拡孔支圧型と周面摩擦先端圧縮型を使い分けることにより、さまざまな地盤に適用可能だと話した。また、サンスイエンジニアリング(株)の長木大剛氏がQ&Sフレーム工法の材料などを説明した。

特別講演では、独立行政法人土木研究所の武士俊也上席研究員が、東日本震災に伴う福島県白河市の地すべりの状況や特徴などを解説。土木研究所での地すべり研究事例も紹介し、「地すべり防止施設の劣化は、安全率の低下と斜面の不安定化を招き、再滑動の可能性が高まる。定期的なアンカーの点検と緊張力計測による管理が必要」と話した。

引き続き林重徳佐賀大学名誉教授が「斜面・法面崩壊の特徴と対策技術」と題して講演を行い、崩壊の種類と対策工法を説明しながら「地すべりでは地下水が大きなウエイトを占めており、その対策に

おいては地下水の排除が重要」と指摘した。

また、長崎県北部から佐賀県北西部にかけて全国有数の地すべり地帯となっている北松地区での対策事例などを説明。同地区の地すべりは「北松型地すべり」と呼ばれており、林教授は「石炭を含む地層の上に国内最大規模の玄武岩溶岩台地が分布していることが一つの誘因。風化した滑落崖が崩落・頂部に堆積して荷重(滑動力)になり、地すべりが起こる」と話し、同地区の地すべりの特徴、発生メカニズムを解説した。

【10月24日HP掲載】